

オレンジカップ in Kyoto

京都市認知症介護指導者

木村 悠紀

キーワード:「出逢い・つながり・笑顔そしてワクワク・ドキドキ」フットサル「サッカーがしたい」認知症の人の思い 認知症の理解

活動の概要(活動の主体:個人、認知症介護指導者チーム)

【活動目的】

認知症の人やその家族が運動できる機会を設けること、また認知症への理解を深めるための普及・啓発活動の一環として参加者相互の交流を図ることを目的とする。

【活動内容】

4時間フットサルコートで、リーグ戦、体操など身体を動かすレクリエーションを行います

活動のきっかけ、背景(指導者として・認知症介護指導者ネットワーク「愛縁奇縁」の立場で)

大阪で開催されているオレンジカップに参加したことがきっかけです。自身の所属していた事業所のご利用者が「サッカーがしたい」と話があり、仲間と一緒に京都でオレンジカップを開催できました。

活動の経過と成果(指導者としての立場・愛縁奇縁(指導者グループ)の立場で)

【活動の経過】

2013年 認知症介護指導者への研究継続支援プログラムに参加させていただき出会った指導者間のつながりが深まる 2013年 愛縁奇縁 ネットワークをつくる 2017年4月 京都市で認知症サポーター養成講座を開催(オレンジカップに向けて認知症の理解を深めてもらうため) ・大阪 京都市認知症介護指導者

2017年5月 第一回オレンジカップ開催 113名大会登録 およそ130名(応援者含む)参加 協賛企業へ認知症サポーター養成講座を開催 京都市認知症介護指導者

2018年5月 第二回オレンジカップ開催 75名大会登録 およそ110名(応援者含む)参加

2019年6月 第三回オレンジカップ開催 80名大会登録 およそ110名(応援者含む)参加

【京都市認知症介護指導者】【大阪認知症介護指導者】【愛知認知症介護指導者】

【事業所の認知症家族の会】ポコニャン会 他

《活動に際して工夫したこと》

①愛縁奇縁メンバーにハローリング(創作アクセサリ-)をつくる

②Tシャツを作り大会当日メンバー着用

③オレンジカップ参加者にオリジナルタオルをわたす(タオル絵 奥田氏)

④大会時、作品展を開催し、フットサルできない方も楽しめる工夫をする ⑤大会の空き時間に横断幕に大会のメッセージを描いてもらう⑥後日、参加者に報告書を郵送する 2017年報告会を開催 ⑦協賛、後援 ⑧SNSを利用する など



【活動の成果】

当日アンケート調査を行う。

・「本当に楽しかった。頭にボールが当たらないように気をつけてやれた。認知症になってしまったときはもうあかんと思ったけど、したいことってまだまだできるんやなあ。こうやって仲間がいるって大切。本当にありがとう。」

・「おじさんとか小学生とか知らない人と一緒にボールを蹴って友だちたくさんできたと楽しかった」など

今後の展望

コロナ禍でオレンジカップを開催することは難しい状況ですが、来年の10月に第四回オレンジカップ(少し規模を小さくして)を開催する計画を少しずつ進めています。①認知症サポーター養成講座の開催②後援・協賛などしてくれそうな企業や団体を探す③SNSでボールを蹴ってパスをつないでいく この三点を計画しています。

こちらの事例報告は、「認知症介護指導者養成研修等のアウトカム評価に関する調査研究事業報告書(令和2年度老人保健健康増進等事業)」の巻末資料【認知症介護指導者の活動事例】からの抜粋です。